

派遣先所属 福島県商工労働部産業創出課ロボット産業推進室

氏 名 柴崎 雄貴 (しばさき ゆうき)

派遣期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

現在、福島県では、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」に基づき、廃炉、ロボット、農林水産、エネルギー、環境・リサイクルの各分野におけるプロジェクトの具体化が進められるとともに、産業集積や人材育成、交流人口の拡大等の取組が行われています。

そのなかで、ロボット分野においては、世界に類を見ない一大研究開発拠点として「福島ロボットテストフィールド (RTF)」の整備が進められています。

RTFでは、無人航空機、災害対応ロボット、水中探査ロボットといった陸・海・空のフィールドロボットを主対象に、実際の使用環境を拠点内で再現しながら研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことが可能となります。完成した施設から順次、利用が可能となっており、9月にはRTFの中核施設である「研究棟」の供用が開始されました。2020年春の全面開所に向け、南相馬市及び浪江町において工事が進行中です。

派遣先のロボット産業推進室では、RTFの整備・運営を担当するほか、主に県内のロボット関連事業者を対象とした各種イベントや補助金業務等が行われており、県外からの職員5名(国、東京都、栃木県、長崎県、埼玉県)を含む13名で業務にあたっています。

私の担当業務は、RTFの整備に関連する事務処理及びRTF使用料の管理が主であり、室内のメンバーや、RTFの指定管理者「公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構」と連携しながら業務を進めています。



福島イノベーション・コースト構想の概要図



RTF完成予想図(鳥瞰図)

2 被災地の復旧・復興の状況

派遣先での生活拠点は福島市内ですが、日常生活において被災の影響を感じることは、現在はほとんどありません。しかし浜通り地域へ向かうと、今でもなお通行規制された道路、積み上げられた大量の除染土嚢、被害を受け放置されたままの施設など、被害状況が目に入ってきます。津波被害だけでなく原子力災害を伴う大きな被害があったことを改めて実感する光景です。生活が取り戻されている場所がある一方で、復興が進んでいない場所や解決しなければならない課題は、依然残されています。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

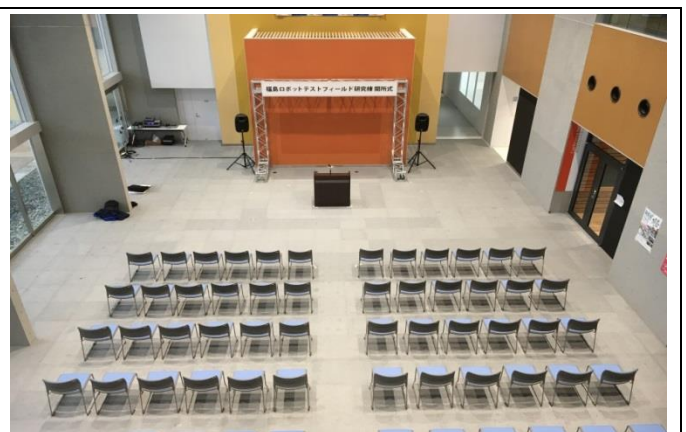
福島県への派遣となり感じることは、福島県は、埼玉県にとって身近な存在であるということです。実際に来るまで、遠い県、被災した県というイメージがありました。しかし、来てみると、「被災地」というよりもむしろ、魅力的な観光地という印象を強く受けます。交通アクセスも、大宮からは高速道路を利用すれば車で2時間半程度、新幹線では1時間と少しで来ることができます。是非、多くの方に実際に足を運んでいただき、素晴らしい自然環境や温泉、文化、更に、美味しい食や日本酒などを体験していただきたいと思います。被災の記憶を風化させてはなりません、「被災地」という側面だけではなく、沢山の魅力に出会うことができます。

業務においては、福島県ならではの貴重な経験を数多くさせていただいています。直近では、10月に南相馬市でRTF研究棟開所式が実施される予定でした。残念ながら荒天のため中止となりましたが、他の場所にはない最先端施設の開所式準備を行ったこと、また、南相馬市内でも道路浸水があり、改めて自然災害の恐ろしさを実感したことなどが記憶に残っています。

埼玉県の魅力についても、県外から再認識することができました。福島県の方に埼玉県のイメージを伺うと、「都会」という言葉がよく返ってきます。このような都市部の利便性を強化するとともに、山間部の魅力も発信していけるよう、埼玉県帰庁後、様々な業務に従事したいと考えています。



RTF研究棟開所式会場準備 (1)



RTF研究棟開所式会場準備 (2)